

「救いたい心」をつむぐコミュニケーションマガジン

赤十字 NEWS

Japanese Red Cross Society NEWS

<https://www.jrc.or.jp>

令和3年5月1日(毎月1日発行) 赤十字新聞 第972号 昭和24年9月30日 第三種郵便物認可

MAY 2021 NO.972

5



わたしも赤十字 寄付の協力者 尾賀 隆 (おが・たかし) さん・泰子 (やすこ) さん【P.4でご紹介】

特集

「昭憲皇太后基金」、記念すべき100回目の配分 慈しみは国も時代も越えて

赤十字の最新情報を、SNSでチェック!



赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

人間を救うのは、人間だ。

 **日本赤十字社**
Japanese Red Cross Society

「昭憲皇太后基金」、記念すべき100回目の配分

慈しみは国も時代も越えて

「昭憲皇太后基金」は、昭憲皇太后(明治天皇の皇后)が1912年の赤十字国際会議に際し、各国赤十字社の平時の活動を奨励するためにご寄付された10万円(現在の3億5千万円相当)を基に創設されました。

当時、戦時救護を主に行っていた赤十字において、自然災害や疾病予防等の平時活動を行うための基金設立は画期的なことであり、世界の国際開発援助の先駆けとなりました。また、100年以上継続している平時の人道活動を対象とした世界最古の国際人道基金とも言われています。

同基金は、国際赤十字の中に設けられた合同管理委員会によって運営され、皇室をはじめとする日本からの寄付金によって支えられており、原資

を切り崩すことなく、そこから得られる利子が世界の赤十字社の活動に配分されます。毎年、昭憲皇太后のご命日にあたる4月11日の前後に配分先が発表され、今年度は、記念すべき「100回目の配分」となります。

昭憲皇太后が平時活動を奨励されたのは、磐梯山噴火という明治の大災害がきっかけでした。その慈しみの御心は、災害救護だけでなく、苦難を抱える人すべてに向けられ、同基金では「青少年への教育」「人身売買の防止啓発」「交通安全の促進」など、さまざまな課題解決に役立てられています。今回はその支援の一部をご紹介します。

1998 内戦時の若者 ※プラスバンドの参加者とは異なります



(写真上) 内戦中のシエラレオネの村で武装する若者、(右) 地方支部にも新しいプラスバンドが立ち上がり、活動が広がっている



「昭憲皇太后」研究者にインタビュー

「世界の姿」を教えてくれる昭憲皇太后基金

現在私は、昭憲皇太后がお召しになられた最古のドレス、大礼服の修復プロジェクトに参加しています。その活動で明らかになったのは、欧州で作ったと思われるドレスに日本独自の刺繍や装飾をほどこされていた、ということ。外交の場で皇太后は日本の優れた技術を諸外国に示されたのだと考えられます。皇太后は御心を日本へ向けるのと同様に、海外へも愛を贈られました。それが「昭憲皇太后基金」です。しかしこの基金が、いくつもの戦争も乗り越え、今日まで継続できたのは、ある特別な事情があったから。

1912年に設立されたこの基金は、スイスの銀行に預けられた元金の利子から支援の配分を



2010

【配分事例①】シエラレオネ赤十字社 「青年プラスバンドプロジェクト」

1991年から11年間にわたる内戦によって、多くの子どもが兵士として駆り出され、住民同士の殺し合いに参加させられていたシエラレオネ。心のよりどころを求める若者たちに居場所や目的を与え、「心の復興」を目指すのが、青年プラスバンドプロジェクト。「銃を捨ててトランペットを！ギャングよりもバンドへ！」と呼び掛け、音楽活動を通じて犯罪などへの誘惑が多い若者を見守るサポートも行う。バンドには演奏依頼が増え、出演料で活動費を捻出できるほどに発展した。

【配分事例②】バヌアツ赤十字社 「脆弱な地域における若者の支援」

バヌアツでは中等教育から有料になるため、学校に通えない若者が多い。この事業は、救急法や災害対応などの講習を行っており、若者たちに無料で教育を受ける機会を与えている。2011年の受講者は216人。修了者の中には、薬物とアルコール中毒だった若者もあり、その一人は「赤十字の活動に参加し、自分をコントロールできるようになった」と語った。

学校に通えない若者に無料講習で教育の機会を！

2011



講習プログラムの修了者には修了証と昭憲皇太后のTシャツが贈られた

2014



【配分事例③】セルビア赤十字社 「子どもと若者の人身売買の防止」

人身売買対策プロジェクトとして、10日間のサマースクールを開催。弱い立場に置かれた2000人以上の子どもや若者が参加し、人身売買についての学習や予防策についての知識を得た。また、セルビア全土で若い教育者100人に研修を実施し、活動の質の向上を図った。

2017



【配分事例④】キルギス赤新月社 「交通安全の促進」

教育省職員を迎えて交通ルールの教材を作成し、10校約3500人の生徒が参加した。歩行者と運転者の安全な行動を啓発することで、交通事故の件数も減少。このプロジェクトはSNSで積極的に拡散され、キルギスタン国内のテレビ放送でも取り上げられた。

2019



【配分事例⑤】タイ赤十字社 「緊急時のWASH事業支援」

緊急時における「水・衛生・保健(WASH)」事業の推進のために基金が使われた。技術者や看護師ら、特に被災地のスタッフの能力向上のため研修やマニュアルの整備を促進。また、被災者のための衛生項目や資機材の整備を通して、WASH事業を強化した。

●今年度(100回目)の配分先

	ケニア赤十字社 (アフリカ) 若年層がオンラインで活用できるボランティア活動のプラットフォームを導入	約387万円
	マラウイ赤十字社 (アフリカ) 発災後すぐに対応できる訓練された災害対応チームを全支部に配備	約352万円
	南スーダン赤十字社 (アフリカ) 果樹の植栽で、脆弱な地域の人々の栄養状態と気候変動による環境への影響を改善	約352万円
	ベナン赤十字社 (アフリカ) 女性の収入創出活動強化と健康情報へのアクセスを増加させ、自主性を支援	約352万円
	バハマ赤十字社 (中南米) 災害リスクの軽減と気候変動への耐性を高める、コミュニティネットワークの開発	約352万円

	コスタリカ赤十字社 (中南米) 遠隔地にある先住民コミュニティの、災害などに対処できる安全な生活環境の構築	約352万円
	ニカラグア赤十字社 (中南米) 高齢者養護施設で医療支援やメンタルヘルス、新型コロナウイルス感染症対策を支援	約346万円
	アルゼンチン赤十字社 (中南米) 組織強化のためのデータ収集と検証のモジュール開発	約352万円
	フィリピン赤十字社 (アジア大洋州) 給水・排水・トイレ・廃棄物処理等、水・衛生環境の改善	約352万円
	パキスタン赤新月社 (アジア大洋州) 血液製剤の保管機能の強化と供給システムの自動化で献血意識を高める	約302万円
	ベトナム赤十字社 (アジア大洋州) プロジェクト管理や社会福祉に関する研修で職員的能力向上を図る	約352万円

	東ティモール赤十字社 (アジア大洋州) 性と生殖に関する健康について、若年層の知識向上を図る	約352万円
	エストニア赤十字社 (ヨーロッパ・中央アジア) ボランティア研修の体系化による地域能力の強化・向上	約352万円
	ジョージア赤十字社 (ヨーロッパ・中央アジア) 衛生習慣と予防接種の重要性を普及し、健康増進への継続的な取り組み	約331万円
	ルーマニア赤十字社 (ヨーロッパ・中央アジア) 心理社会的手法を用いた、児童養護施設にいる若者の支援活動	約349万円
	イラン赤新月社 (中東) 地方の商工施設と協働した小規模なビジネス支援で、周辺地域住民の収入向上を目指す	約352万円

※全て令和3年4月5日レート(1スイスフラン=117.46円)により換算
毎年、昭憲皇太后の命日である4月11日前後に基金の配分先が決定・発表されます

行きます。ところが、社会経済の変化、預金利子の低下などにより、最初の元金だけでは基金の存続が危ぶまれる事態に。そのため、日本赤十字社は、明治神宮などに協力を仰ぎ、昭憲皇太后の御心を守るための募金や寄付を募りました。この活動は第二次世界大戦後に幾度も行われ、結果、日本中から寄付が集まり、元金が増え、利子による支援の継続が叶えられました。社会福祉や国際協力のための基金は世界中にあります。昭憲皇太后基金がこんなにも長く続くのは、日本の皆さんのおかげ。けれども一方で、日本という小さな島国で暮らす我々は、昭憲皇太后基金の配分によって、広い世界でどのような人道支援が必要とされているかを毎年、知ることができます。これこそまさに、日本の内と外、広く世界へ眼差しを向けた昭憲皇太后の願いが具現化した基金だと言えるのではないのでしょうか。

明治神宮 国際神道文化研究所 主任研究員

今泉 宜子さん



今回の記事は、今泉さんが基金の支援先を実際に取材してまとめた著書『明治日本のナイチンゲールたち 世界を救い続ける赤十字「昭憲皇太后基金」の100年』(扶桑社)から一部を構成しました



5月は赤十字運動月間

コロナ禍でも「救うを託されている。」



テレビCM 30秒・15秒

「あなたの手となり、ぬくもりとなり」

救護される人の目線で医師や看護師などの活動を伝えるテレビCM「あなたの手となり、ぬくもりとなり」篇。「救うを託されている。」赤十字の活動をリアルに感じていただくことを目指しました。新型コロナウイルス対応についてもメッセージを掲示します。



新型コロナウイルス感染症
対応実施中

詳しくはWebで

あなたの、手となり、目となり
私たちは、そこに行く。
支援するあなたも、赤十字です。

毎年5月は「赤十字運動月間」として、赤十字が取り組む、人を救うための多岐にわたる活動を少しでも多くの方に知っていただき、寄付によるご支援をお願いする月です。今年も「救うを託されている」をキーワードに、国内外での日赤の活動や支援で救われた寄付者の声、寄付をして救うを託してくださった方の声などを、赤十字運動月間の特設サイトでご紹介しています。

今年は、昨年度に好評をいただいたCM動画「あなたの手となり、ぬくもりとなり」を全国の地上波で放送するほか、YouTube、Tver、GYAO、Abema、SPORTS BULLなどの無料動画配信サイトでも放送いたします。



緊迫した医療現場を気鋭の写真家がレポート!

また運動月間にあわせて、国際メディア「ハフポスト」の日本版サイトでは、新型コロナウイルス感染症に対応する日赤の医療現場を撮り続けてきた写真家によるフォトレポートも掲載。運動月間特設サイトからのリンクで無料でお読みいただけます。

「赤十字運動月間」特設サイトはこちら
<https://www.jrc.or.jp/lp/gekkan/>



特設サイト内からご覧いただけます
(4月30日から公開)

わたしも赤十字

今月の表紙

赤十字にはさまざまな形で赤十字の活動に参加する支援者がいます。
全国の支援者の中から毎月お一人を、温かいメッセージと共にご紹介します。



寄付の協力者

おが たかし やす こ
尾賀 隆さん 泰子さん

滋賀県大津市/53歳・59歳

コロナ禍の寄付。
再出発のきっかけになれば

この新型コロナの影響で、私たちも生活が180度変わってしまいました。昨年夏、夫婦で経営していた会社を畳みました。子どもは2人いますが、下の子が大学を卒業した後でしたので、なんとか1年を乗り切れました。

なぜコロナ禍でも寄付を続けたのか、と聞かれたら、私たちは阪神・淡路大震災を経験していますから。当時住んでいた神戸市西宮の社宅は地震で半壊。新婚で2カ月前に引っ越したばかりのタイミングでの被災でした。実は、同じ地区にある別の社宅を選んでいたら、私たちは助からなかった。区画一つの違いが、生死の分かれ目でした。被災し、住む家を失いましたが、全国から次々と届く支援物資を会社の仲間とさばき、市内各地に届け続けました。その時、支援を受ける側で気づいたこと。人も物も、日赤のようなところからまとめて支援を受けたほうが、被災地の負担が減る。

だから、災害が起こると思わず私たちも支援に動きたくりますが、冷静に考え、日赤に託します。

今、社会全体が厳しい状況ですが、幸い私たちは健康に過ごせております。これも医療関係者や赤十字の方のおかげだと思っています。感謝して、寄付をすることで、私たちにとっても再出発のきっかけになれば…。阪神・淡路大震災の時のようにきっと乗り越えられると思います。 ※お二人の言葉をまとめています。

寄付するあなたも赤十字です

- クレジットカードで寄付
- 郵便局・銀行の口座振替
- 郵便局・銀行の窓口
- お近くの日本赤十字社窓口

詳しくはこちら →





熊本地震から5年。 「災害医療の限界」に挑み続ける熊本赤十字病院

災害時の医療は、最も必要とされ、優先されるべきことのひとつですが、災害現場で生命を守る活動を行うためには、水や電力の確保、医療資機材の輸送の問題や、医療ニーズの正確な情報収集など、多くの課題や障害があります。

国際医療救援拠点病院として、国内外の災害に医療チームを派遣する熊本赤十字病院は、これらの障害を乗り越えるための研究開発を国内外の研究機関や企業と共同で行っています。そのカギは「災害時に役立つ技術を普段使いすること」。熊本赤十字病院の曾篠恭裕救援課長は次のように語ります。

「災害が発生してから医療チームが被災地に到着するまでにはどうしても時間がかかります。医療チームが到着する前に、人々の生命や尊厳を守るためには、災害時に役立つ技術やサービスを多くの人々に普段使いしていただくことが大事です」

新型コロナウイルス対策など災害時の困難は増加していますが、国際救援のエキスパートと学術機関や企業の研究者、技術者との共創による、新たな災害支援技術の研究開発が進められています。

可動式ブース「withCUBE」



※画像はイメージです。

LIXIL、GK設計と共同でプライベート空間を確保する可動式ブースの共同実証を開始。普段は熊本赤十字病院内でもミーティングやWeb会議ブースとして活用しながら、昨年熊本市で発生した豪雨災害では、発熱した小児患者の隔離や、新生児の授乳スペースなどに活用された。

燃料電池医療車



※画像はイメージです。

TOYOTA と共同開発した水素で発電する燃料電池を使った救急車の実証実験をまもなく開始。平常時は、CO₂ 排出量が削減され温暖化防止に貢献する医療車として活用され、災害時には医療現場や被災地に電源を供給しながら医療活動をサポート。新しい燃料電池医療車の運用モデルとして注目を集めている。

ハイブリッド車からの電源供給



実験により、普段使われているハイブリッド車プリウスから救護所の医療機器に電力を供給することが可能であると証明された。日常の移動手段としてだけ

ではなく、「走る発電機」として被災医療施設や支援用ドローンの運航基地局などへの電力供給も期待される。

完全自己処理型水洗トイレ TOWAILET(トワイレ)



トワイレは、バクテリアにより排せつ物を浄化処理し、処理した水を洗浄水として再利用することで、上下水道が未整備な場所や、災害で寸断された場所でも置くだけで使える完全自己処理型水洗トイレ。すでに熊本や長崎などの公園内での利用が進んでいる。これまで、九州北部豪雨、西日本豪雨、熊本豪雨災害の被災地支援で活用され、普通的水洗トイレと同じレベルの高品質な使用感に高い評価が寄せられている。

ドローンによる高品質な医療物流



災害時にドローンを医療機器や薬品の搬送に用いるためには、ドローン輸送を日常の医療物流手段として確立させる必要がある。現在、企業や他組織と共に実用化に向けた実証実験を継続して行っており、将来は医療サービスへのアクセスが困難な遠隔地域などの医療インフラとしての活用を目指している。

東大脳に挑め!

挑め!

知識を深める赤十字QUIZ

出題 東京大学クイズ研究会(TQC)

知ってるつもりでも、意外と知らない赤十字のこと。
東大クイズ研が手掛ける問題にあなたは正解できる!?

今月は「赤十字運動月間」です。赤十字の活動にご理解とご協力を呼びかけるため、毎年5月は全国各地でさまざまな取り組みが行われています。そこで、今回のテーマは「赤十字会員」。クイズで赤十字の会員制度について知識を深め、世界中で苦しんでいる人々を救うための活動やご寄付に興味を持ってくださる方が増えたらうれしいです。それでは問題です!



今月のクイズ

難易度：★★★

赤十字会員について説明した文章で正しいものはどれでしょう?

ヒント
会員には、個人・法人を問わず、どなたでも加入することができます。

- 1 赤十字会員には年齢制限がある。
- 2 赤十字会員とは日赤の目的に賛同し支援する人のことである。
- 3 日赤の会員になるには、日本国籍が必要である。
- 4 赤十字会員になることのできる月は5月だけである。

答えはP.6へ

AREA NEWS

全国各地
あなたの生活のすぐそばで
日本赤十字社の活動は行われています。

東京都 日赤の看護大学で入学式開催 「救う」を託される人となれ

4月2日、日本赤十字看護大学で入学式が開催されました。(学)日本赤十字学園の大家義治理事長(日赤社長)は新入学生に向けて「看護師は人々の期待と信頼を受け止め、赤十字の使命を胸に業務に当たる。皆さんにもエキスパートになってほしい」と祝辞を贈りました。なお、看護師を目指し、日赤の看護大学6校と看護専門学校12校において今年度に入学者の方は合計1147人となりました。



保護者・来賓者は出席を控え、規模を縮小しての開催となった

東大問題に挑戦! クイズの答え

2 赤十字会員とは日赤の目的に賛同し支援する人のことである。

答えは②です。日赤の公式ホームページにある「会員について」の項には、「赤十字の会員とは、日本赤十字社の目的に賛同し、支援して下さる方のことです。会員には、会費として年額2000円以上のご協力をいただくことにより、個人・法人を問わず、どなたでも加入することができます」と明記されています。年齢や性別、職業などに関係なく、支援や協力をしたいという方のお気持ちひとつで会員になることができます。

北海道 コロナ禍での献血を応援 名産品のそば2万食を寄贈

北海道の赤十字血液センター旭川事業所は、そば生産量日本一の上川管内幌加内町から乾麺や半生麺、合計2万食の寄贈を受けました。町の名産、幌加内そばはコロナ禍で消費量が激減。同じく献血者も外出自粛の影響で減少しており、献血者にそばを配ることで、献血者増と町内の製麺業者への支援、両方を目指しています。そばは4月から半年間、提供される予定です。



「これほどの量を寄贈されること自体珍しい」と血液センター職員

島根県 豪雨災害の被災地に笑顔を 島根の小学生による出前寄席

平成30年の西日本豪雨災害で被災した広島県呉市天応地区で「にこにこ寄席」が開かれました。落語を披露したのは、日赤島根県支部の青少年赤十字加盟校 奥出雲町立高尾小学校の3人。全生徒数が7人の同校では落語の授業があり、「被災地のみなさんを元気に」という生徒たちの希望から寄席が実現。生徒が集めた義援金も同地区の赤十字奉仕団委員長に直接手渡されました。



3人の逞やかな落語と小話に、会場は大らかな笑い声であふれました

秋田県 集まらずに災害に備える 「防災セミナー動画」を制作

日赤秋田県支部では「赤十字防災セミナー」の動画を制作、支部ホームページで公開しました。昨年の緊急事態宣言以降、対面で行うセミナー開催が難しくなっています。しかし、災害はいつ起こるか分からず、「備え」は常に必要です。この動画では対面式セミナーの代わりとして、災害時に命を守り、周囲と助け合う知識や技術についてわかりやすく説明しています。



動画は支部ホームページの他、左のバーコードからも閲覧できます

埼玉県 卒業間近の思い出作りも... 小学5・6年生が合同防災体験

青少年赤十字加盟校でもある埼玉県のと光市立下新倉小学校で、5・6年生が参加して、初の合同防災体験を実施しました。昨年度はコロナ禍のため6年生の修学旅行も5年生の林間学校も中止という事態に。卒業式を間近に控えた3月12日、児童たちは最後の思い出作りも兼ね、カリキュラムと一緒に体験。学校のリーダーとしてのバトンも6年生から5年生へと受け渡されました。



日赤埼玉県支部職員が支援し、丸1日掛けて実施した

滋賀県 万一の事故に備え、日本初の 原子力災害対策施設が竣工

3月10日、基幹原子力災害拠点病院に指定されている長浜赤十字病院で、新設された「原子力災害対策施設」の竣工セレモニーが行われました。内閣府の交付金を利用した日本初の専用施設で、隣県の福井県にある原子力発電所で事故発生の際には、傷病者の診療、被ばく線量の測定や除染処置などが行われ、平時には原子力災害の医療研修施設としても活用されます。



専用の設備と高度な人材育成により、原子力災害に備える

香川県 10年目の「3.11」を前に 決意を記す防災イベント

日赤香川県支部は、3月6日に高松市の「さぬきこどもの国」で「防災とボランティアのつどい」を実施。親子連れが次々と訪れ、地震や台風に対する備えの大切さを学びました。また、参加者は「絆 3.11」と書いたメッセージボードに防災の決意や被災地への思いを書いて貼り付け、そのボードは3月11日に、高松丸亀町番町駅前ドーム広場でも展示されました。



色とりどりのメッセージで、「絆」の文字が形づくられた

常任理事会開催報告

令和3年4月16日、令和3年度第1回の常任理事会が開催されました。今回の常任理事会は、付議事項はありませんでしたが、赤十字会員増強運動、「2025大阪・関西万博」における赤十字バビリオンの出展、予算の補正にかかる社長専決事項等について、それぞれ報告しました。

※オンラインによる開催となりました。

災害義援金受け付け中!

日本赤十字社では、被災された方々を支援するため、下記のとおり義援金を受け付けております。皆さまからお寄せいただきました義援金は、被災者が設置する義援金配分委員会へ全額をお届けします。

①令和3年島根県松江市大規模火災義援金
②令和3年2月福島県沖地震災害義援金

受付期間 ①、②とも2021年5月31日(月)まで
郵便振替(ゆうちょ銀行・郵便局)、銀行振り込みでご協力いただけます。詳しくは日赤のホームページをご確認ください。

日赤 国内義援金 検索

※上記の受付期間は4月23日時点のものです

世界赤十字デー レッドライトアッププロジェクト

5月8日の「世界赤十字デー」を中心に、ランドマーク施設が赤十字のシンボルカラーに染まる「レッドライトアッププロジェクト」。今年は世界遺産の三池炭鉱 宮原坑(福岡県)も参加。苦しみに寄り添う赤十字の精神を伝え、コロナ禍の苦難を共に乗り越えることを願い、赤い光が各地で輝きます。

北海道	五稜郭タワー	5/8	兵庫県	明石海峡大橋	5/8
青森県	津軽ダム	5/8	島根県	松江城	5/7~9
秋田県	ポートタワーセリオン	5/1~31		山陰中央テレビジョン放送株式会社(鉄塔)	5/7~9
山形県	上山城	5/7~9	広島県	広島本通商店街アーケード	5/8~14
群馬県	草津温泉(湯畑、西の河原公園)	5/7~8	山口県	海峽ゆめタワー	5/7~9
	富岡製糸場	5/7~9		(株)三宅商事	5/1~31
東京都	日本看護協会ビル	5/8	愛媛県	いよてつ高島屋 大観覧車「くるりん」	5/8
神奈川県	横浜市開港記念会館	4/30~5/8		今治国際ホテル	5/8
	よこはまコスモワールド コスモクロック21	5/8	福岡県	福岡市赤煉瓦文化館	5/7~9
新潟県	新潟日報メディアシップ	5/8		小倉城	5/7~9
富山県	タワー111	5/1~8		三池炭鉱 宮原坑	5/7~9
福井県	吉岡幸(株)テクノセンター	4/30~5/9	佐賀県	佐賀県庁	4/30~5/31
山梨県	山梨県庁 別館	5/7~12.20~31	長崎県	稲佐山山頂電波塔	5/8
京都府	京都府庁 旧本館	5/8	熊本県	熊本赤十字病院	5/1~31
	舞鶴赤十字病院	5/8	大分県	大分銀行赤レンガ館	5/6~14
	京都府赤十字血液センター	5/8	宮崎県	宮崎県庁 本館	5/1~14
兵庫県	阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター	5/5~11	鹿児島県	(株)山形屋	5/1~31

※4月16日時点の開催予定。開催は中止になる可能性もあります。

ニッポンの赤十字ゆかりの地を巡る vol.2 赤十字名所紀行

西南戦争の戦場跡地、敵味方の区別無く、名を記す慰霊碑

日本最後の内戦である西南戦争。その激戦地として知られる田原坂(熊本市区)では、17日間、昼夜にわたる戦闘が繰り広げられました。官軍が熊本城に物資を運ぶための重要な通路だったために多くの命が散った戦場跡地ですが、現在はその一部が整備されて美しい公園に姿を変え、多くの人が訪れる憩いの場所になりました。

園内には、戦死した官軍6923人、陸軍7186人、殉難者29人の御霊が祀られる「西南役戦没者慰霊之碑」や、民謡「田原坂」に出てくる「美少年」像があり、像の背後には銃弾が食い込んだ樹齢350年以上のクスノキが残っています。平成27年11月にリニューアルオープンした「田原坂西南戦争資料館」では、戦いの様子をリアルに再現した体感展示や、実際に使われた銃や弾、古文書などの資料を見ることもできます。また、激戦の跡が生々しい「弾痕の家(復元)」にも、赤十字関連の資料が多く残り、日本赤十字社発祥の地となったこの地から平和の大切さを伝え続けています。

慰霊碑には両軍の戦没者約1万4000人の名前が記され、慰霊塔は眼下を走る列車からも拝めるように12.5mの高さに建てられた

「赤十字を応援！」プレゼント パートナー企業紹介 vol.14 大阪タオル工業組合

吸水性に優れた「泉州タオル」を緊急支援助物資に。より早く、被災地へ届けたい

泉州タオルギフト 5名さまに

明治20年、大阪府泉佐野市の綿業者がタオル製織に成功。日本初のタオルを開発した人物が中心となって立ち上げた団体が、現在の大阪タオル工業組合です。133年の歴史の中で受け継がれてきた後晒(あとさらし)製法のタオルは吸水性と柔らかさに定評があり、「泉州タオル」ブランドとして全国で愛されています。同組合は、東日本大震災の発生後に東北コットンを使用したタオルを製作・販売し、被災地域の復興を応援してきました。また、日赤大阪府支部とパートナーシップ協定を締結し、同商品の売り上げの一部を赤十字の活動資金に寄付しています。近年、全国規模で自然災害が頻発する中、同組合では緊急支援助物資としてフェイスタオル1万枚の常時備蓄と迅速な出荷体制を整備。令和2年には泉州タオル産地全体で協力し、新型コロナウイルス感染症に対応する施設、九州地方の豪雨被災地などに対し、いち早く支援を実施。計3万枚のタオルを届けました。

日本タオル発祥の地から、高品質な「泉州タオル」詰め合わせをお届け!

写真写真はイメージです

上記プレゼント希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・WEBでご応募ください。①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢 ⑤赤十字NEWS5月号を手に入れた場所(例/献血ルーム) ⑥5月号に関するご意見・ご感想

郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社 広報室 赤十字NEWS 5月号プレゼント係 FAX/03-6679-0785 WEB応募/右の2次元バーコードから応募ください。5月31日(月)必着 ※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

こちらから応募できます

WORLD NEWS

国際赤十字のワクチンへの取り組み



©バングラデシュ赤新月社

バングラデシュでは保健当局が予防接種の大規模キャンペーンを展開。バングラデシュ赤新月社もフル活動

貧困国や移民にも公平なワクチン配分を目指して

日本を含む世界各国で接種が進む新型コロナウイルス(COVID-19)ワクチン。国際赤十字全体で、ワクチンの公平な配分に向けてキャンペーンが展開されています。

*1 2021年4月時点
*2 米州およびカリブ海地域

**脆弱な立場の人々にもワクチンを
モルディブは非正規移民にも無償で提供**

COVID-19に対するワクチンは、世界の国々で開発や承認が進められています。しかし、これまでにワクチンのおよそ70%は富裕国上位50カ国で投与されており、最貧国50カ国では0.1%しか実施されていません*1。

国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)は、より公平なワクチン接種を支援するため1億スイスフラン(日本円で約117億円)の追加計画を2月に発表。医療従事者や高リスクの患者への投与を優先しつつ、移民や、紛争の被害者、災害の被災者といった最も弱い立場にある人々への支援を明確に打ち出しています。

世界各地で、すでに66の赤十字・赤新月社がワクチンキャンペーンを展開中です。バングラデシュではこれまでに530万人がワクチンを接種。そのうち270万人がバングラデシュ赤新月社の支援によって行われました。バングラデシュ全土に公平にワクチンがいきわたるよう、約1000人が新規にボランティア登録をし、350以上の郡で毎日1700人も地元ボランティアが啓発活動やワクチン接種希望者の登録作業などに従事しています。さらに、インド洋にあるモルディブ赤新月社は国内にいる非正規移民にもワクチンを

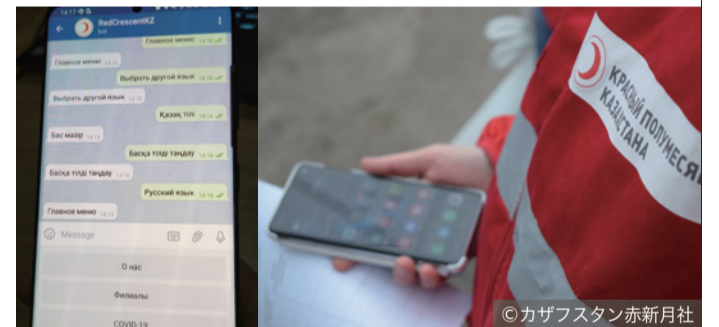
接種できるように政府や保健当局に訴えかけました。その結果、自国民だけでなく脆弱な立場の移民にもワクチンが無償提供されることが決定しました。また、各国の赤十字・赤新月社はSNSによるワクチン啓発活動も積極的に展開しています。カザフスタン赤新月社はIFRCと協力して、ワクチンに不安を抱き、ワクチン接種を躊躇する人々に向けて、SNSのチャット上で自動会話ができるプログラムを開発。疑問や懸念を持って質問した人に正確な情報を伝え、不安の解消に努めています。

**「全員が安全になるまで誰も安全ではない」
この1年で学んだ、コロナ禍のリスク対策**

貧困や移民問題を抱えるアメリカ大陸担当のIFRC職員マーサ・キーズさんは、公平なワクチン接種の意義について次のように語ります。「この1年で私たちが学んだことは『全員が安全になるまで、誰も安全ではない』ということ。パンデミックで最たる影響を被るのは、最も保護が手薄な人々です。アメリカ大陸*2には約5750万人の移民があり、これは世界全体の移民の約5分の1以上に相当します。移民は、必要な保健、水、衛生サービスへのアクセスが制限され、劣悪で混沌とした生活・労働環境に置

かれていることが多く、ウイルスの脅威にさらされやすいといえます。私たちは赤十字として、弱い立場の人々が感染し、感染流行がさらに拡大する危機に備えるため、彼らを支援し、彼らの安全を強化する活動に努めています。世界規模の危機に立ち向かっているという意味で、COVID-19は私たちのつながりをより強固なものにしました。他方、公平な支援が実現できないと、さらなる格差と、生存すままならない多くの人々を置き去りにする恐れがあります。私たちは、世界的な連帯強化、誰一人置き去りにしない支援の実現に努めなければなりません」

ワクチンの公平な配分は全世界の安全と安定に貢献します。国際赤十字は引き続きCOVID-19への対策を強め、連携を進めてまいります。



©カザフスタン赤新月社

カザフスタン赤新月社とIFRCが開発したSNSのチャットサービス。ワクチン接種への理解を深められるように最新情報を提供している



© Ahmad Al Basha/ICRC

赤十字、世界の「現場」から

supported by ICRC

赤十字国際委員会(ICRC)が展開する紛争地での保護活動や避難民支援。その活動現場で切り取られた、知られざる世界の姿、世界の課題。

イエメンの都市タイズで廃棄物の山から売れそうなゴミを集める少年。缶やガラスなどがむき出しで散乱している場所だが少年は裸足で歩く。紛争により経済が破綻し、不衛生な環境が常態化したイエメンでは、コロナ以外にも、さまざまな感染症が人々の命を奪っている。

イエメンでは、内戦、空爆、コレラのまん延などにより約2000万人が人道支援を必要としている。2500以上の学校が破壊され、200万の子どもたちが学校に通えていない。現地赤新月社は医療施設に薬や救急医療用品を提供し、紛争の被害者に食料を配付している。